

私の将来の夢

筑波大学附属小学校 五年 田中 香帆

私の将来の夢は、身体的ハンディキャップを克服するためのプロダクト開発研究者になることだ。

祖母の家に遊びに行くと、子供好きな祖母は私に会うことを楽しみに待っていてくれて、会うたびにいろんな質問をしてくる。学校のことや最近面白かったこと、色々伝えたくて私は祖母に話すのだが、この数年は耳がとて悪くなり私の言葉が聞きとれないようで、会話がはずまずとても残念だ。数年前まではたくさんおしゃべりできて私と祖母はとても仲がよかったのに。聞こえないと祖母は何回も申し訳なさそうに「ごめんさいね」と言うので私もとても悲しくなる。補聴器も持ってはいるのだが、会話以外の雑音まで大きく聞こえて違和感があり、長時間の使用はつらいそうだ。なので、もっとストレスなく、使い心地のよい道具があればいいなと思った。

例えば祖母のように高齢の耳が悪い人が使うものならば、使っている人が聞こうとしている声をまわりの声よりも大きく聞こえるようにする。また目で話の内容を理解することができるよう仕組みにし、補聴器の使用が困難な重度な難聴の人も使えるようにする。

そのためには工学を学び技術を身につける必要がある。いま世の中にどんな技術があるか、現状を知ること大切だ。なぜかという、考えてアイデアを出すだけでは実現することが難しいが、自分が工学について知れば、可能性が高くなると思うからだ。

今の世の中の現状は、高齢化社会でほとんど高齢の人たちが増えているのに、その人たちが本当に気に入って愛用できる道具が少ないのかもしれない。仮に機能が良かったとしても、デザインが悪くて積極的に使いたいと思うものではない。

つたりする。ハンディキャップを持つ人が意欲があっても社会で活躍する機会は少ない。理由は高齢の人と同じく、今あるものが機能的にもデザイン的にも使いづらく、社会との関わりに、消極的なのも理由の一つらしい。なので私は使いやすく、持っていて楽しくなるようなデザインのものを作りたいと思う。

ハンディキャップを持っている人は、周囲から可哀想な目で見られるのは嫌だ。ろうし、私の祖母のように、迷惑をかける申し訳ないと思う高齢者も多いと思う。私はプロダクトによってそういったマイナスの感情をプラスに変え、全ての人に平等な世の中を作りたい。

世界中の最新技術を知るには、海外の論文を読む英語力、開発のためプログラミング力も必要だ。私は英語が苦手だし、プログラミングも覚えるのは時間がかかることだと思ふ。それに工学部のある大学に入るのも、工学を学ぶのも大変だと思ふが世界中の誰もが不自由のない未来を作るため、一つ一つがんばっていきたい。

田中香帆 のライフプラン

将来なにになりたいか？ 身体的ハンディキャップを克服するためのプロダクト開発者
その理由：高齢者やハンディキャップを持つ人も楽しく生活できる便利なプロダクトを作り、世界中の誰もが不自由のない未来を作りたいから

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2022年	11(小5)	将来工学を学ぶため、企業の開発 今は全教科勉強する。関連のニュース、書籍、新聞代	塾、学校の授業料
2023年	12(小6)	筑波大学附属中学 プログラミング 進学準備 勉強→	
2024年	13(中1)	英語を強化 筑波大学附属サイエンス 中学校入学 の論文を読む	中学入学金 パリコン代
2025年	14(中2)	全国の工学部主催のイベント 等に参加	地方への 交通費
2026年	15(中3)	筑波大学附属高校進学 準備	
2027年	16(高1)	数学・物理 筑波大学附属 英語をさらに強化 高校入学	高校入学金
2028年	17(高2)	全国の工学部主催のイベント 等に参加	地方への 交通費
2029年	18(高3)	工学部のある大学進学のため、勉強	
2030年	19(大1)	大学の工学部3入学 工学の基礎を学ぶ	大学入学金
2031年	20(大2)	専門的な知識を学ぶ	
2032年	21(大3)	課題を研究し、テストなど	
2033年	22(大4)	に積極的白くに参加	
2034年	23(院1)	大学院へ進学	大学院入学金
2035年	24(院2)	専門的研究をし、進路を 決める	
2036年	25	企業の研究所、もしくは プロダクト開発の部門に就職	研究費、生活費
2037年	26		
2051年	40	誰もが不自由のない便利 な道具を世に発表する。	

※最後の行は、何歳の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう！